

科学部「Science Meeting in SUWA 野外実習」

8/21(月)～8/23(水)にかけて、本校科学部の生徒は付属諏訪高校・付属浦安高校の生徒とともに「諏訪湖の水質や生物について合同調査」を実施しました。この企画は本校のBSSP(望洋理科特別講座)の一環として、またこの活動を通して、付属高校間の科学教育交流、理系学部進学後の実践的研究手法などを高校段階で早期習得し、『理科好き』を増やす目的に行われました。

初日の8/21(月)は信州大学理学部・宮原裕一教授から、諏訪湖の水質についての歴史的変遷やCOD(化学的酸素要求量)の検査方法、「諏訪湖の水質の変遷とその歴史」と題した事前講義を受けました。過去40年間の諏訪湖の水質変化を様々な数字的観点からお話いただきました。「諏訪湖は汚い」「最近はきれいになってきた」「最近はヒシが問題」「アオコ」「地球温暖化」など、ニュースや新聞で見聞するキーワードについて、データを追うことによって体系的に観ることができました。

2日目の8/22(火)の午前は、諏訪湖にてサンプル採取や水温と溶存酸素の測定を行いました。午後は付属諏訪高校の実験室にて、プランクトンの種類を調べるグループと、パックテストで水質を分析するグループに分かれて作業を行い、実験データをもとにレポートを作成しました。

最終日の8/23(水)は、信州大学・森川英明教授・副学長に特別講義「大学での学びと研究～自身の将来を考えるために～」をしていただきました。この講義では、「大学に進学する意義」や「企業での研究と大学での研究の違い」についてなど、生徒は真剣にメモをとりながら受講していました。

この研修で、付属生同士の交流や研究内容の発展などにつながる非常に良い機会となりました。主催をしていただいた付属諏訪高校の先生方には大変感謝しております。今後もBSSPの活動を通して、『理科好き』の生徒が増えることを期待しています。